

教育課題連絡会議

重点（Ⅰ）授業の充実

お手元に御準備ください。

- ◆スライド資料
- ◆R7「下北の教育」（案）

令和7年度の実践事項

令和6年度の実践事項

- 1 単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通した授業づくりのための指導計画の作成及び指導と評価の一体化
 - ★「おおむね満足できる」状況（B）を具体的に想定し、授業で適切に見取り、授業改善に生かす。
- 2 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくり

令和7年度の実践事項

- 1 単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通した授業づくりのための指導計画の作成及び指導と評価の一体化
 - ★「おおむね満足できる」状況（B）を具体的に想定し、授業で適切に見取り、授業改善に生かす。
- 2 「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養に向けた教材研究の深化
- 3 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくり
- 4 各教科等の特質に応じた体験活動を重視した指導の工夫及びこどもの学びを支援する学習環境と学習活動の充実

★令和6・7年度の力点（特に力点を置いて取り組んでいただきたい実践事項）

- 1 単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通した授業づくりのための指導計画の作成及び指導と評価の一体化

★「おおむね満足できる」状況（B）を具体的に想定し、授業で適切に見取り、授業改善に生かす。

管内の現状

成 果	課 題
○「おおむね満足できる」状況（B）を具体的に想定し、 ⇒多くの学校で具体的な想定が行われるようになってきた。	●授業で適切に見取り、授業改善に生かす。 ⇒「ねらい」と評価規準のずれ

★令和6・7年度の力点（特に力点を置いて取り組んでいただきたい実践事項）

- 1 単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通した授業づくりのための指導計画の作成及び指導と評価の一体化

★「おおむね満足できる」状況（B）を具体的に想定し、授業で適切に見取り、授業改善に生かす。

管内の現状

⇒多くの学校で具体的な想定が行われるようになってきた。

例）B：前時のグラフの結果をもとに、ゴムののびの長さを変え、車の走る距離をコントロールできることを実験で確かめている
小学校3年 理科

例）B：平行四辺形の性質が成り立つことを条件や理由を明確にして説明している。
中学校2年 数学

★令和6・7年度の力点（特に力点を置いて取り組んでいただきたい実践事項）

1 単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通した授業づくりのための指導計画の作成及び指導と評価の一体化

★「おおむね満足できる」状況（B）を具体的に想定し、**授業で適切に見取り、授業改善に生かす。**

管内の現状

⇒さらに充実を図るよう取り組みたい。

●授業で**適切に見取り、授業改善に生かす。**

⇒「ねらい」と評価規準のずれ

要因：学習課題の設定と授業展開、評価が適切ではない。

対策：単元の指導計画の見直しや改善

ねらいは「思考力・判断力・表現等」だが、評価規準は「知識・技能」となっている

5

令和7年度の力点 ポイント①

単元の指導計画の見直しや改善①
⇒「単元の評価規準」の設定の見直しや改善

単元の目標の作成

内容のまとまりごとの評価規準の確認

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の巻末資料を活用

- ・「内容のまとまりごとの評価規準」等を**目標に応じてそのまま用いたり、分割したり、組み合わせたりして、作成する。**
- ・文末を変換するなどして作成

単元の評価規準を作成する

「指導と評価の計画」を作成する

2 内容のまとまりごとの評価規準（例）

A 数と計算

(1) 「数の表し方」

知識・技能	思考・判断・表現	主体性
・万の単位について知っている。	・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を考え、日常生活に生かしている。	・数に「う」を添えて表す。
・10、100、1000、10000の大きさの数及びそれらの表し方について知っている。	・数の相対的な大きさについての理解を促している。	

(2) 「加法、減法」

知識・技能	思考・判断・表現	主体性
・3位数や4位数の加法及び減法、数量の関係に着目し、計算の	・数量の関係に着目し、計算の	



6

令和7年度の力点 ポイント2

単元の指導計画の見直しや改善②
⇒適切な評価の時期や場面の工夫

小学校算数科の例

- ・1～3時間目は**学習状況を把握し、指導に生かす評価**とする時間 ※毎時間児童生徒全員の記録を取り、蓄積するのは現実的ではない。
- ・4時間目は全員の学習状況を記録に残す場面

※「・」は「指導に生かす評価」を行う場面

※「○」は「記録に残す評価」を行う場面

指導に生かす評価をする

記録に残す評価をする

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体性
1	余りがある場合でも除法を用いてよいこと			
2	・や、答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。			
3	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。 余りと除数の関係を理解する。 ・余りと除数の関係を調べる。	・知①（ノート分析） ・知③（ノート分析）	・思①（行動観察、ノート分析）	
4	等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。 ・等分除の場面で、答えの見つけ方を考える。		○思①（行動観察、ノート分析）	
5	余りがある場合の除法計算について、答え	・知②（ノート		

7

令和7年度の実践事項 柱2

2 「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養に向けた教材研究の深化

- 成果
- 学習課題の焦点化を図る工夫
 - ペア学習やグループ学習など学習形態の工夫

- 課題
- 互いの考えを比較した後で、**自分の考えを練り直す力**を高める工夫
 - 集団としての考えを形成する場面**の設定

「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けた教材研究の深化

例) 中学校2学年社会「近世の日本江戸幕府と3つの改革」
時代背景を調べまとめた後、武士、農民など、様々な立場の人々の視点から江戸幕府の改革を捉えさせ、生徒が**歴史を自分事として考える**ような教材研究の工夫をする。

「学びに向かう力、人間性等」の涵養に向けた教材研究の深化

例) 中学3年理科「ダニエル電池のしくみ」
ダニエル電池のしくみについてイオンで説明することができるようにするために、単元の初めに獲得した知識をもとにイオンのモデル図等で具体的操作を行い、自分の考えを構築する。
グループ活動では、各自が考えを伝え合うことをで、**考えを修正したり再構築したりしながら、試行錯誤を通じて問題を解決する過程**が設定できるよう工夫する。

8

令和7年度の実践事項 柱3（1）

3「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくり

成果 ○児童生徒の興味・関心に基づく学習課題の設定の工夫をしている

課題 ●自身の考えをもてないまま、グループでの話し合いをしている
●多様な考えが出された後、教師が形式的にまとめをつくる

3（1）問題解決的な学習を重視し、1単位時間の指導に当たっては、次のような取組を設定し指導方法の工夫をする。

問題解決的な学習の重視（1単位時間の指導）

- ・学習活動の目的や手立て、そのゴールを明確にする。
- ・児童生徒にとって必然性のある課題とする。
- ・全ての児童生徒に、自身の考えをもたせる工夫をする。
- ・多様な考え方に触れ、新たな気づきや考えを深める問題解決の場を設定する。
- ・児童生徒が考えを表現し、成長や変容を振り返る場を設定する。
- ・児童生徒の学びの姿を視点とした評価を積み重ねる。

予想や仮説等に基づく自力解決場面となる工夫

「出された考え」や「結果」の確認だけでなく、それに基づいた解釈をする場の設定

9

令和7年度の実践事項 柱3の（3）

3（3）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。

成果 ○ICTを活用し、より効率的に「個別最適な学び」を実現する授業づくりに取り組む学校が増えている。

課題 ○タブレットを使用した学習の増加に伴い、対面での話し合いや考えを説明する機会が減少することにより「個別最適な学び」が目指される一方で「孤立した学び」が生じる懸念がある。

（3）②「協働的な学び」の推進

「育成を目指す資質・能力と個別最適な学び・協働的な学び」

一部抜粋

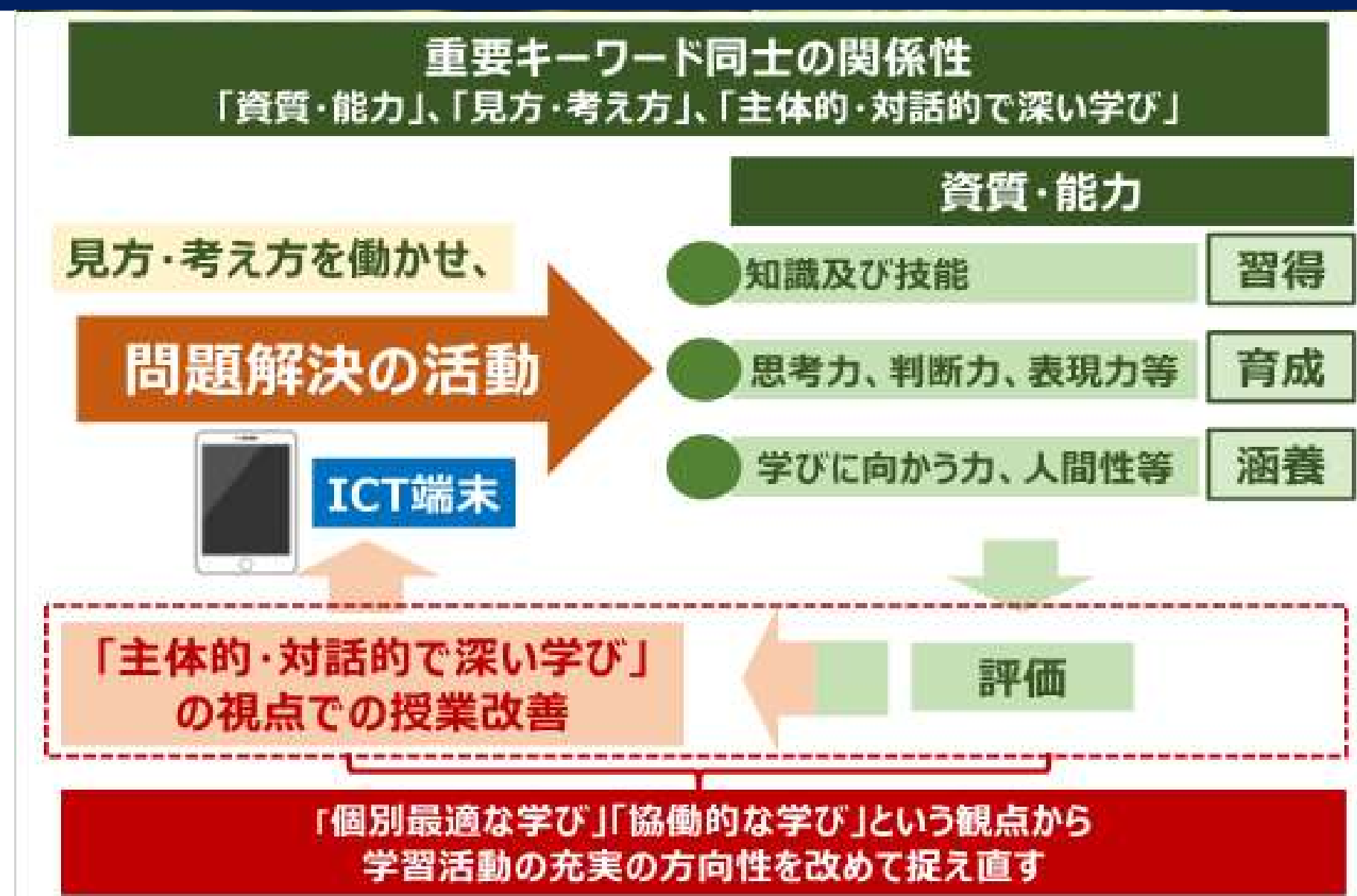
ICTの活用により児童生徒一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動など「協働的な学び」もまた発展させることができます。

同時に、日本教育がこれまで非常に大切にしてきた、同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことの重要性について改めて認識する必要があります。

出典：R3 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実（文部科学省）

10

令和7年度の実践事項 柱3（3）



出典：福島大学人文社会学群人間発達文化学類 准教授 鳴川哲也氏

11